

令和3年度 東京都内湾水生生物調査 11月鳥類調査 速報

●実施状況

令和3年11月4日に鳥類調査を実施した。天候は晴れで、気温17.1～19.0℃、北寄りの風、風速0～3.7m/secであった。調査当日は大潮で、干潮が10時26分(59cm)、満潮は16時14分(202cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ)
作業時刻	8:26-9:34	9:54-10:55	11:53-13:13
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	17.1	17.9	19.0
風向	北	-	北東
風速(m/sec)	3.5	無風	3.7
備考	波がやや高かった。	採貝船等、船舶の往来が多かった。	干潟は広く干出。

●主な出現種等

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ)
数が多かった 鳥類上位2種	カワウ(132羽) スズガモ(108羽)	コガモ(128羽) アオサギ(24羽)	カワウ(1487羽) スズガモ(772羽)
備考	・重要種として、オオバンなど、4種を確認。 ・第六台場と鳥の島、お台場海浜公園でカワウ132羽を確認。営巣は始まっていなかったが巣材を運ぶ成鳥が観察された。 ・鳥の島でアオサギ35羽が休息。お台場海浜公園で4羽、第六台場は2羽のみ確認。 ・お台場海浜公園でスズガモの群れを確認。キンクロハジロ2羽が混じっていた。	・重要種として、ミサゴなど、7種を確認。 ・干潟でタゲリ2羽を確認。本調査では初記録となった。 ・干潟でカモメ類が休息、アオサギが採餌。 ・カモ類はマガモ、ハシビロガモ、コガモの3種で、上空を飛翔する個体が多かった。コガモは干潟で休息する個体も見られた。 ・ミサゴが杭の上で採餌、トビが上空を飛翔。	・重要種として、ヒクイナ、ミサゴ、ハヤブサなど、12種を確認。 ・ハヤブサが干潟上空でオオバンを捕らえようとしたが、ハンティングには失敗した。 ・干潟でカワウが休息、サギ類が採餌。ハヤブサが出現する度に、干潟から一斉に飛び立った。 ・シギ・チドリ類はダイシャクシギ1羽のみ。カモメ類の個体数も少なかった。一因として、ハヤブサによる攪乱が考えられる。 ・ヨシ原でヒクイナの鳴き声。

●出現種と個体数

[illegible]

※種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会, 2012)に従った。

*1種の保存法 国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種

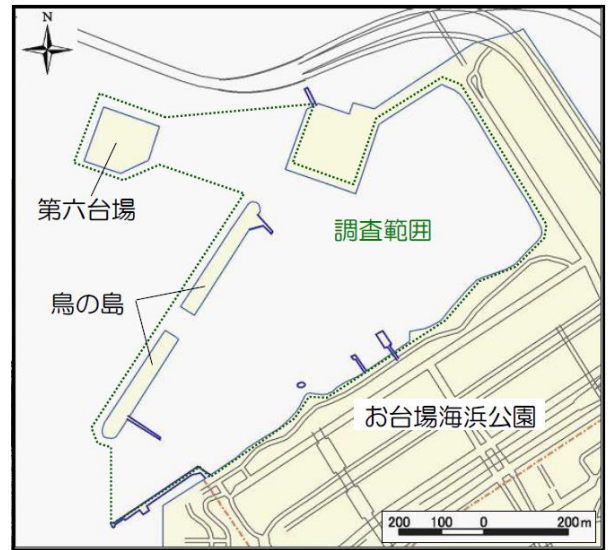
*2環境省レッドリスト2020 CR:絶滅危惧ⅠA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:準絶滅危惧、DD:情報不足

*3 東京都レッドリスト(本土部)2020年度版 CR:絶滅危惧ⅠA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:準絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、留:留意種

お台場海浜公園＞

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島ではカワウの営巣は終了していた。



○出現種(カワウ)

第六台場で 124 羽、鳥の島で 7 羽、お台場海浜公園で 1 羽が記録された。生殖羽の個体が増え、巣材を運ぶ行動が 2 回観察されるなど、繁殖の兆候が認められた。



巣材を運ぶカワウ

○出現種(アオサギ)

41 羽が記録され、主に鳥の島の護岸に集まって休息していた。9 月の調査以降、鳥の島ではアオサギの群れが継続的に確認されている。



○出現種(カモ類)

留鳥のカルガモに加え、冬鳥のカモ類が見られるようになった。お台場海浜公園の海上でスズガモとキンクロハジロが休息。スズガモは東京都レッドリストで留意種に指定されている。

○出現種(カモメ類)

ユリカモメ 64 羽とセグロカモメ 1 羽が確認された。カモメ類は主にお台場海浜公園の海上で休息していた。



矢印の 2 羽はキンクロハジロ、
他はスズガモ

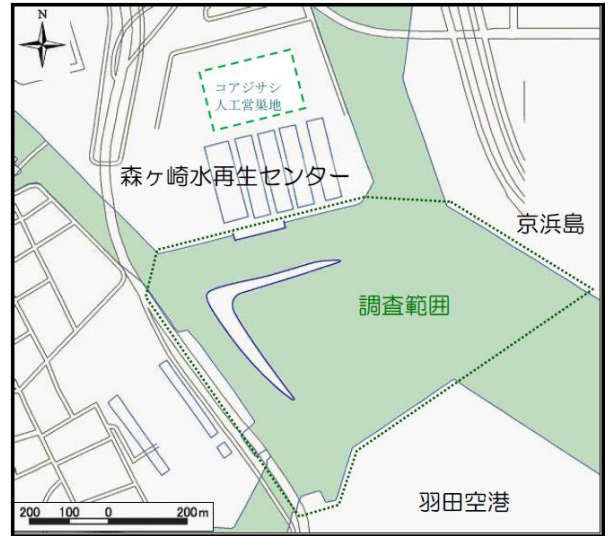


ユリカモメ

＜森ヶ崎の鼻＞

○調査地点の状況

最大干潮時刻だが、干潟は比較的狭かった。



○出現種(タゲリ)

本調査では初記録。干潟で採餌する 2 羽が確認された。タゲリは本州以南に冬鳥として渡来する。過去に確認されていないことから、移動途中に一時的に立ち寄ったと考えられる。



○出現種(ミサゴ)

杭にとまって魚を食べる幼鳥 1 羽が確認された。本種は環境省レッドリスト(2020)で準絶滅危惧種 (NT)、東京都レッドリスト(2020)で絶滅危惧種 I B 類(EN)に指定されている。



○出現種(カモ類)

マガモ 5 羽、ハシビロガモ 3 羽、コガモ 128 羽が確認された。これらのカモ類は森ヶ崎の鼻～森ヶ崎水再生センター付近を飛翔する個体が多く見られた。コガモは干潟付近の浅瀬で休息する様子も観察された。



○干潟利用状況

アオサギが汀線付近で採餌、ユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメが干潟上で休息していた。



＜葛西人工渚＞

○調査地点の状況

干潟は広く干出し、調査中に徐々に狭まっていった。



○出現種(ハヤブサ、オオバン)

ハヤブサ幼鳥 1羽が数回出現し、ハンティングを行った。飛翔中のオオバンを追いかけ捕らえたが、直後に離してしまった。ハヤブサは種の保存法で国内希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)に、オオバンは、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定されている。



○出現種(スズガモ)

沖合に浮いているスズガモ 772羽を確認。範囲内では記録されなかった。



○干潟利用状況

カワウやサギ類、カモメ類、ダイシャクシギが干潟にいたが、ハヤブサが出現する度に驚いて飛び回る様子が見られた。ハヤブサは干潟中央部に降りることもあった。今回の調査でシギ・チドリ類やカモメ類の個体数が少なかったのは、調査開始前にハヤブサに攪乱を受けていた可能性がある。



<その他>

○ウミネコの繁殖

砂町運河でウミネコは確認されず、構造物上には巣の痕跡も見られなかった。9、10月調査と同様、京葉線の高架に多数のカワウがとまっているのが確認された。



ウミネコが営巣していた構造物



高架にとまるカワウ

<トピックス>

- 捕食されたオオバン -

葛西人工渚の調査の際、ヨシ原の中でオオバン2羽の死体を確認した。周囲に散乱した羽毛の状態から、大型鳥類に捕食されたと推測される。ハヤブサ等の猛禽類やカラス類の可能性が考えられるが、他に手がかりがなく、捕食者の特定には至らなかった。